

1

今年度の結果と取り組みについて

(1) 全国学力・学習状況調査

○●国語●○

<p><b>国語A</b> (領域ごと)</p> <p>①話すこと・聞くこと 良好な結果であった</p> <p>②書くこと 良好な結果であった</p> <p>③読むこと 良好な結果であった</p> <p>④言語事項 良好な結果であった</p> <p>(問題形式)</p> <p>①選択式 良好な結果であった</p> <p>②短答式 良好な結果であった</p> <p>③記述式</p> <p>(無解答率) 良好な結果であった</p> <p>(その他) 正答率の高かった設問は、漢字の読み書きの問題で、多くの生徒が正答していた。特にAでは、意見文の下書きを読んで考える問題が全国に比べても良くできていた。 正答率の低かった設問は、語句の意味を理解し、文脈で適切に使われる漢字を選択する問題であった。唯一正答率が平均を下回る結果となっている。 無解答率は大変低く、ねばり強く取り組む姿勢がみられた。</p>	<p><b>国語B</b> (領域ごと)</p> <p>①話すこと・聞くこと 良好な結果であった。</p> <p>②書くこと 良好な結果であった</p> <p>③読むこと 良好な結果であった</p> <p>④言語事項</p> <p>(問題形式)</p> <p>①選択式 良好な結果であった</p> <p>②短答式</p> <p>③記述式 良好な結果であった</p> <p>(無解答率) 良好な結果であった</p> <p>(その他) 正答率の高かった設問は、雑誌の記事から読み取る問題で、約10%全国平均を上回る正答率であった。また、未来の日本についての考えとその理由を書く問題でも、全国平均をかなり大きく上回る結果となった。 昨年に比べて正答率がぐっと下がったが、正答率の低かった設問も、大阪府・全国と比べ上回っている。 無解答率は低く、書くことに挑戦している。</p>
--	---

分析

・国語Aは大問が9つあり、分野は物語・説明文・論説・情報を読み取る問題等さまざま、頭を切りかえ集中して読み進め、正しく判断する力が要求される。また、ただ文章を読んで答える設問だけでなく、手紙の書き方や書道の書き方について問う設問も含まれている。

・国語Bは大問が3つあり、授業で身につけた基礎的、基本的な知識や技能を目的に応じて使う力が試される。全て最後に記述式の問題があり、書く力が要求される。考えたことや読み取れたことを自分の言葉で表現する力が必要となる。

・A・Bどちらも、ほとんどの問題において正答率は大阪府平均・全国平均を上回っている。特に、Aの「読むこと」の問題では、90%を上回り大変良好な結果であった。しかし、国語Bでは昨年に対して大幅に正答率が下がっている。作品を読んで感想を書く・発表を聞いて感想を書くなどの取り組みもしてきたが、多くの生徒が書くことに対して苦手意識を持っている。これからの取り組みとしては、教科の中だけでなく、書くことを必要とする様々な場面で卒いっぱい自分の意見を書かせるよう指導していきたい。

# ○●数学●○

数学 A	数学 B
(領域ごと)	(領域ごと)
①数と式 良好な結果だった	①数と式 良好な結果だった
②図形 良好な結果だった	②図形 良好な結果だった
③関数 良好な結果だった	③関数 良好な結果だった
④資料の活用 良好な結果だった	④資料の活用 良好な結果だった
(問題形式)	(問題形式)
①選択式 良好な結果だった	①選択式 良好な結果だった
②短答式 良好な結果だった	②短答式 良好な結果だった
③記述式 良好な結果だった	③記述式 良好な結果だった
(無回答率)	(無回答率)
良好な結果だった	良好な結果だった
(その他)	(その他)
正答率の高かった設問は、等しい比を選ぶ、時間と道のりの関係を表すグラフを基に、家からの道のりを求めるものであった。	正答率の高かった設問は、問題場面における考察も対象を明確にとらえるであった。
正答率が低かった設問は、数量の関係を文字式に表す、対頂角は等しいという証明を選ぶであった。	正答率の低かった設問は、事象を式の意味に即して解釈し、その結果を数学的な表現を用いて説明するである。
無回答率はゼロの問題もあり、非常にすくなかった。	全体としては無回答率は低かった。その中で、与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理する、図形に着目し考察した結果を基に、問題解決の方法を図形の性質も用いて説明するは高い数字を示した。

**分析**

今回の問題から基礎的な問題はできている傾向にある。しかし、基礎的な問題からすこしずれると誤答率が多く、できない傾向がある。基礎的な問題はできるが、今までにやったことがない問題や、考えを説明するなどの問題になると解く力がなく間違ってしまう。

自分の言葉で説明するなどの問題に苦手な傾向があるため、今後の対策とし自分たちで問題を作るなど、様々な問題のパターンを考えさせ理解させるようにし、いろいろな教材を使い数学の理解を深めていく必要がある。

昨年度同様にどの問題も、全国、大阪府ともに上まわっており、非常に良い結果として見る事ができる。

## ○●理科●○

### 理科

#### (分野等)

- ①物理的領域  
良好な結果であった
- ②化学的領域  
良好な結果であった
- ③生物的領域  
良好な結果であった
- ④地学的領域  
良好な結果であった

#### (問題形式)

- ①選択式  
良好な結果であった
- ②短答式  
概ね良好な結果であった
- ③記述式  
良好な結果であった

#### (無解答率)

概ね良好な結果であった

#### (その他)

全国平均と比較すると全ての領域、問題形式で上回っていた。その中で、若干低い傾向にあったのは、短答式の問題であった。最も高かった化学領域との差が、0.09ポイントであった。無解答率も低く、真面目に取り組んでいることが伺われる。

### 分析

#### \*領域別での考察

4領域の中で正答率の高い順より、生物、化学、物理、地学となっている。どの領域でも本校は、全国・大阪の値よりかなり高い結果であった。

#### \*問題形式での考察

選択式・短答式・記述式の内、全国・府内より1～2ポイント低いものが選択式で1問、全国平均より2ポイント低いものが短答式で1問あった。

#### \*無回答率への考察

全ての設問に対して全国平均より低い。これはそれぞれの問に対してわからない場合も思考し解答を出そうと前向きに取り組んでいると考えられる。

#### \*全体的

平均正答率は全国平均より高くなっているが、それは、18～22問正解している中高学位層の成績をとっている生徒が多く、逆に、5～4問しか正解できなかった学力低位層の割合が少ないことによると考えられる。

## ○●経年比較●○

### 全体的な傾向についての分析

- ・昨年度までの4年間は、ほぼ同程度の数値を維持していたが、今年度は特に学力向上の成果が見られ、今までで1番良い数値となった。
- ・数学Bは飛躍的に数値が増加した。
- ・国語A・Bがそれぞれ下がり、特に国語Bについては、改善の方法を考えていく必要がある。

### 学力高位層と学力低位層についての分析

- ・全体的に見ると、学力高位層は増加傾向にあり、高い水準を維持している。しかし、一方で減少傾向にあった学力低位層の割合が増加した。
- ・授業の中でのきめ細かい指導や課題をやりきる力をつける等の取り組みをさらに進めていきたい。

## ○●取り組み●○

### 学力向上に関する取り組み

\* 24年度から3カ年計画として、下記の4項目について取り組み、その成果を毎年検討している。

#### 朝の読書

- ・8:30の予鈴から10分間を読書の時間とし、取り組んでいる。生徒は予鈴で入室し、各自持参または学級文庫の本を読む習慣が確立している。
- ・8:35の本鈴に遅れる生徒はほとんどいなくなった。
- ・図書委員会とも連携し、学級文庫の本の選定や管理を行っている。
- ・今年度はさらに本に興味を持たせる工夫のひとつとして、放送による読み聞かせを行う。

#### 授業改善の取り組み

- ・定期テスト前後に各学年の状態に応じて、チャイム着席・服装・授業準備点検などを学級委員会、生活委員会と連携して取り組む。
- ・学年ごとに「授業がんばろう週間」「C・C・WEEK」「G week」と名前をつけて実施している。授業が終わると次の授業の準備、チャイム着席、授業中は積極的に挙手をして発表する、私語はしない等、授業に取り組む姿勢を見直す機会でもあり、「授業を大切にす」気持ちを常に持ち、実行していくための取り組みである。
- ・今年度は生徒会とも連携し、生徒たち自らがこの取り組みについて考え、全校で一斉に取り組んでいく。

#### 研究授業・研究協議の実践

- ・年3回の研究授業  
時間を設定し、全教員が参観し、その後研究協議を行う。
- ・秋の授業交流週間においては、積極的に授業見学することを奨励する。
- ・研究協議においては、授業についての意見交流を行う。また、講師の先生に来ていただき、日頃教員の中で課題となっている事柄について理解を深めていく。

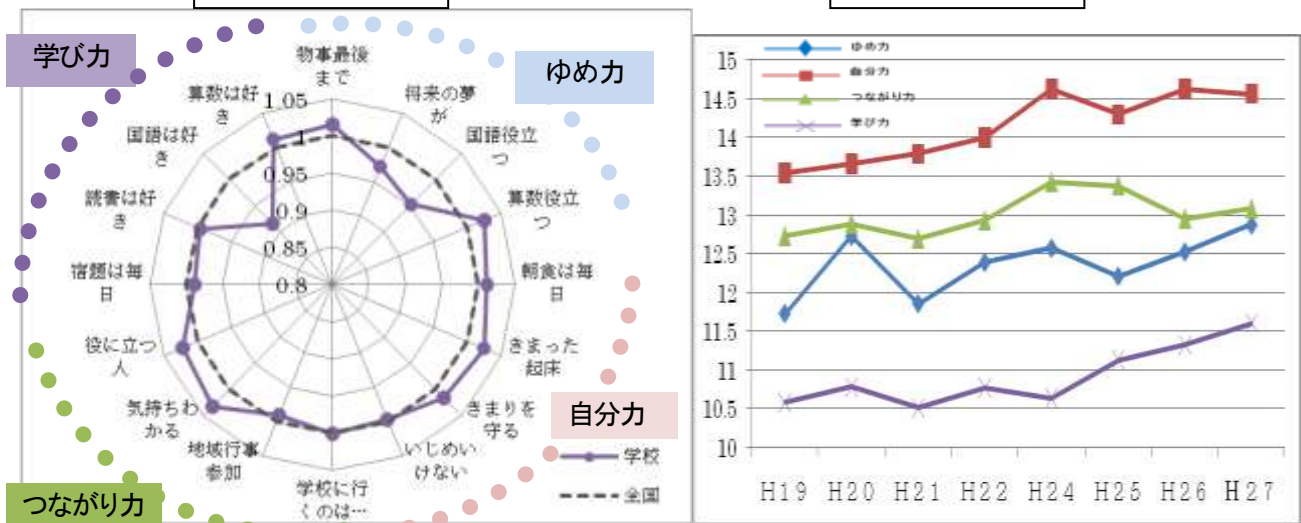
#### 学び～舎

- ・放課後の自主学習の場として、木曜日に開いている。
- ・生徒が自分の課題を認識し、自主的に参加する場であり、毎週来る生徒も出てきた。
- ・前年度から継続して参加する生徒も増え、分からないことを安心して聞ける場としても定着してきた。
- ・学び～舎では、生徒たちは担当の教員やボランティア教員から教わっている。

# 子どもたちに育みたい力

今年度の結果

これまでの推移



## 分析

最近4年間では、ゆめ力・学び力については、1番高い数値となっている。昨年まで少し減少傾向にあったつながり力が上昇している。

学習状況調査をみると、

- ・朝食を食べている生徒が95%と昨年と同様に非常に多い。起きる時間・寝る時間が決められているなど、基本的な生活習慣が身に付いている。これは保護者の協力が大きいと思われる。昨年同様、予鈴登校はきちんとできている。
- ・テレビ・ビデオ・ゲームに費やす時間が少ない生徒が多く、平日2時間以上、学校外での学習時間があるとの回答数も全国平均をかなり上回っている。学習塾に通う生徒の割合が高く、通っていない生徒の割合は全国のおよそ半分である。一方、平日に3時間以上テレビ・ゲーム・ビデオに費やすとした生徒が増加傾向にあり、家庭学習を増やすために保護者とのさらなる連携が必要である。
- ・学校の規則、友達との約束を守っていると答えた生徒が多く、規範意識が高いことがわかった。いじめに関しては、「どんな理由があってもいけない」と考えている生徒が多かった。
- ・94%の生徒が物事を最後までやり遂げうれしかった体験をしており、自尊感情も高く、人の役に立ちたいと考えている生徒が多い。しかし、夢となるとまだ持っていない生徒が多く、将来の夢があると答えた生徒は全国平均を少し下回った。

## 取り組み

### つながり力

- ・授業の中での班活動・グループ活動を実践し、研修で理解を深めている。これによりグループ活動への教師の意識が高まり、生徒たちの様子にも変化が出てきた。また、生徒の取り組みにおいても、班で話し合い、考え、発表させるグループワークや、個人での発表の場面をできるだけ多く取り入れるようにしてきた。
- ・地域行事に参加している生徒に変化が見られた。3年生では1年時に「地域調べ」、2年時は「多文化共生学習」に取り組み、地域や世界の国々を学んで、つながっていくこと、また、調べ学習や発表の中で、クラスの友達ともつながりを深めていく活動をしてきた影響と思われる。
- ・教師の学級集団づくり・リーダーの育成についても取り組みを進めていきたい。

### 自分力

- ・いじめに対する「どんな理由があってもいけない」という意識は昨年に引き続き、高かった。これは道徳の授業実践や学活の取り組みが成果を上げているものと思われる。さらに取り組みを進めたい。

### ゆめ力

- ・学習や行事を通して、最後までやり遂げた時の達成感を味わっている。夢や目標を持てるようにがんばりたいと考えている生徒も多い。2年生で行う「福祉体験」では、視野を広げ、体験をしていく中で、自分の将来の夢や目標をもつことへの手がかかりをつかんでほしいと考える。

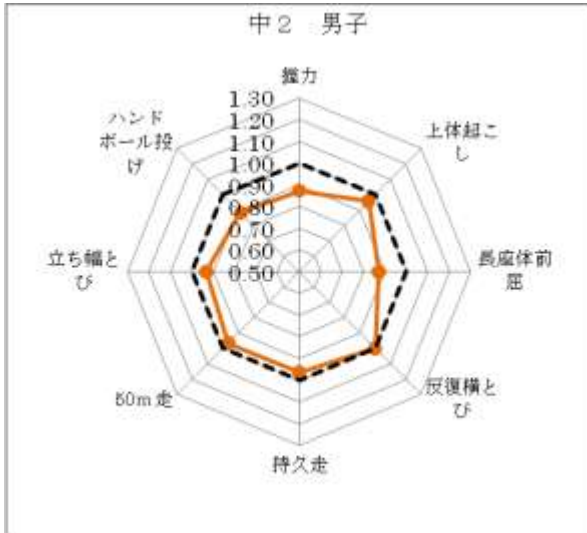
### 学び力

- ・朝の読書が定着してきたこともあり、読書は好きと思う生徒は年々増加している。数学の学習は好きという生徒の割合が大幅に増加した。その一方で、国語が好き・役に立つという生徒の割合は少なかった。国語（日本語）は実生活では不自由を感じていないと感じている生徒、授業で設定している目標が高いため、難しく感じている生徒がいると思われる。
- ・ICT機器を活用した授業、楽しく取り組める授業を実施していきたい。

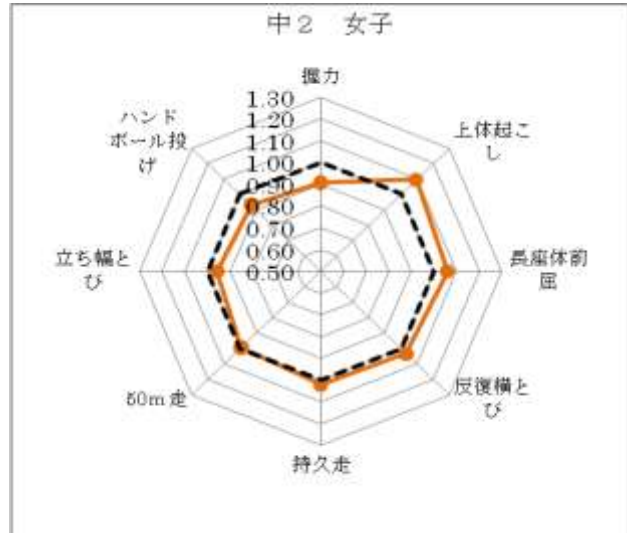
## (2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

### ○●体力●○

男子 (中2)



女子 (中2)



#### 分析

【男子】8項目中7項目が全国平均を下回る結果となった。特に、長座体前屈は全国平均を大幅に下回り、柔軟性に欠ける生徒が多いことが分かる。まず、柔軟性を高めることを最優先にしていきたい。全国平均を上回った反復横とびに関しては現状を維持しつつ、残りの6項目の記録の向上を目指し、8項目のバランスを整えていきたい。

【女子】8項目中3項目が全国平均を下回る結果となった。特に握力は全国平均を下回る結果となり、それに関連するハンドボール投げに必要な投力に欠ける生徒が多いことが分かる。まず、女子においては握力をつけることを最優先したい。女子は全国平均を上回っている項目が昨年度に比べて多く、バランスが取れているので、平均を下回った項目を伸ばしつつ、全体的な記録の向上を目指していきたい。

#### 取り組み

体育の授業は体育委員が主導となって行う部分がある。ランニング、ラジオ体操、補助運動、筋力トレーニングは決まった形があり毎回行っている。しかし、分析をみると体力項目に偏りがあるとわかった。従来行ってきた運動だけでは補えきれないものもあるので、男女それぞれが大幅に全国平均から劣っている体力項目の改善をまず考えていきたい。男子では柔軟性に劣る傾向があるのでストレッチを継続的に取り組んでいく。女子では握力が全国平均を下回る結果が出たので、筋力トレーニングの中や授業の中で筋力を高める運動を取り入れていく。もちろん大幅に下回った体力項目だけを徹底的に伸ばすのではなく、バランスのとれた体力向上を目指していくのでその他の体力項目についても各学年の課題と照らし合わせながら、継続的に取り組める運動を授業内に取り入れていく工夫を行わなければならない。よってバランスのとれた体力を目指す点から、授業で取り扱う競技のバランスを考える必要がある。カリキュラム編成時にも前年度の体力分析を用い、よりその学年の課題に迫る授業を考えて取り組んでいこうと考えている。

## 2

## 3年間の計画

	(各校)		(ブロック共通)
	学力向上	体力向上	中学校ブロック連携
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1人1人を大切にした授業づくり</li> <li>・生徒がつながり、自他を認める集団づくり</li> </ul>	調和のとれた体力を身につける。	中学校によりスムーズに移るための指導の継続と発展
平成26年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝の読書 ◎</li> <li>・学び～舎（放課後の自主学習）◎</li> <li>・研究授業・研究協議の実践 ◎</li> <li>・授業改善の取り組み ○</li> <li>・授業交流週間（6月・11月）○</li> <li>・校内研修会（目標に準拠した評価についての研究）◎</li> </ul>	<p>男女ともに全国平均を大幅に下回った項目の記録を向上させる。</p> <p>【男子】柔軟性 授業の準備運動にストレッチ運動を追加する。相手の状態にも気づいて欲しいので、2人組の運動を追加し、柔軟性の向上に取り組む。△</p> <p>【女子】投力 カリキュラムのバランスを取る。球技の授業時に体の使い方を指導に重点を置く。またウォーミングアップ時にボールを使用した運動も適宜取り入れていく。○</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①連携担当者会議の開催△</li> <li>②連携コーディネーター教員による「小中学校間いきいきスクール」の実施△</li> <li>③学校事務の共同実施◎</li> <li>④行事を共有し合う△</li> <li>⑤各校の研究授業に参加◎</li> </ul>
平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>26年度の取り組みを継続しつつ、</li> <li>・研究授業の回数を増やす。</li> <li>・目標に準拠した評価の確立をめざす</li> <li>・朝の読書の活性化（放送による読み聞かせ）</li> </ul>	<p>前年度に重点的に向上を目指した項目の取り組みを継続させつつ、カリキュラムのバランスを整える。</p> <p>【男子】柔軟性 授業の準備運動にストレッチ運動を追加する。相手の状態にも気づいて欲しいので、2人組の運動を追加し、柔軟性の向上に取り組む努力を昨年度から継続して行う。</p> <p>【女子】投力、握力 引き続きカリキュラムのバランスを取る。球技の授業時に体の使い方を指導に重点を置くだけでなく、日頃の筋力トレーニングを工夫して体力の向上を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>26年度①～④を継続し、</li> <li>⑤中学校ブロック合同研究授業の開催◎</li> <li>⑥教科・養護・支援などの部会を開催（連携カリキュラムの検討）△</li> </ul>
平成28年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>27年度の取り組みを継続しつつ、</li> <li>・授業で学んだことから、自分の意見を持ち、それを発表する場を設定する。</li> </ul>	各学年の課題に応じた取り組みを授業のはじめに行うウォーミングアップの中に取り入れ、総合的な体力の向上を図る。また、全国平均との差を前年度よりも小さくするために継続した取り組みができるよう、体力テストの分析を体育科全体で行った上で、次年度のカリキュラム編成を考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>27年度の①～⑥を継続し、</li> <li>⑦ブロック連携カリキュラムの作成</li> <li>⑧中学校ブロック合同研修会の開催</li> <li>⑨小中連携担当者会議を定期的に開催。</li> </ul>

